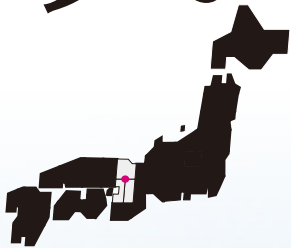


けいはんな view



afterコロナ社会に向けて、新しい形のイノベーションに期待

国立国会図書館関西館長 木藤 淳子氏

特集：けいはんなのSATOYAMA

けいはんな発イノベーション『Brain Tech』

ATR、同志社大学

わがまち魅力発信 ……『精華町』

国立国会図書館関西館×けいはんな記念公園

けいはんなグリーンイノベーションフォーラム



afterコロナ社会に向けて、 新しい形のイノベーションに期待

国立国会図書館関西館長
木藤 淳子 氏



昨2020年、四半世紀ぶりに科学技術基本法が本格改正され、この4月から施行されることになりました。名称も科学技術・イノベーション基本法に改まりましたが、ここでの「イノベーション」は、技術革新という限定的な意味を超えて、社会をイノベートすることが想定されています。また、自然科学を中心とする狭義の科学から、人文・社会科学をも包摂する総合知としての科学を対象とすることとなりました。

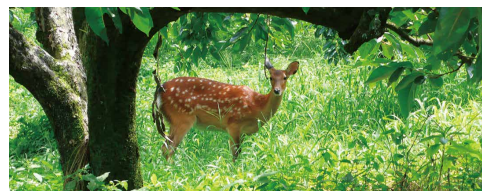
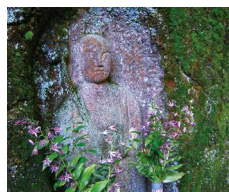
当然のことながらコロナ禍が顕在化する前から改正の検討は進められてきたと思われますが、図らずも、コロナ禍を克服し、afterコロナ社会を実現するために、正に多分野の知識や技術を融合したイノベーションが必要不可欠なものとなっています。

けいはんな学研都市の特長として、構想時から、いわゆる理工系の学問だけに偏らず「文化」の重要性にも目を向けていたことが挙げられますが、今改めてその先見性に気づかされます。

パンデミックをはじめとする、現在私たちが（日本だけでなく世界的に）直面している問題（多発する大規模災害、気候変動、エネルギー、様々な位相でのセキュリティ等々）に立ち向かうには、先端の知識技術とともに、人間の歴史的な知恵もフル稼働させる必要があるでしょう。今こそ学研都市の出番だと期待しています。例えば学研都市が立地する地域は、非常に古い歴史を持ち、千数百年前も最先端だったわけで、空間や領域の多様性に加え、時間的な重層性も兼ね備えているのが学研都市の強みの1つではないでしょうか。

国立国会図書館関西館も、広義のサイエンスに係る情報資源を提供することで、学研都市の一員としての貢献を続けたいと願っています。

学研都市の自然再生クラスターと里山 ～木津北地区・鹿背山(かせやま)～



けいはんなの東端に位置する木津北地区は、都市開発される予定でしたが、事業を取り巻く社会経済状況等の変化により計画中止となりました。

今後は持続可能社会の実践の場としての役割を明確にし、オオタカの地域個

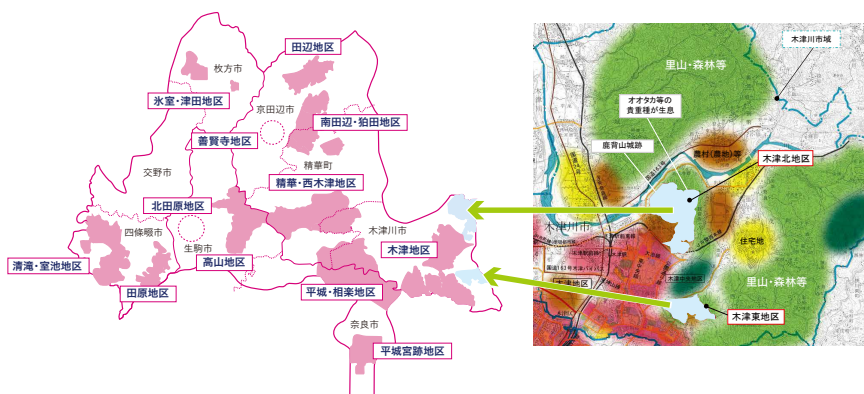
体群の確保など生物多様性の保全を促進する産官学や地域の人々との取組み体制の構築が望まれます。

けいはんな学研都市は社会的共通資本である里山と共生してこそ持続可能であり、世界的な都市モデルとなり得ます。

生物多様性基本法に基づいてまちづくり目標やゾーニングが定められ、地元住民や企業の方々が多数参加して里山保全活動を進める様子をご紹介します。

- 自然再生の時代に対応した近畿圏における広域緑地の一環として位置付け、文化学術研究都市に相応しい地域環境が有するポテンシャルを生かした新しい土地利用をめざす。
- クラスター内外で、先進的な学術研究資源、高水準の都市居住ゾーンと、これまで豊かな生態系を維持してきた里山、農業・農村環境資源を有機的に連携させつつ、地域全体としての環境質、生活質、活力の向上を図る。
- 木津中央地区で営巣確認されたオオタカの保全に配慮し、木津地区全体として「オオタカと共生するまちづくり」を進める。
- 都市的土地利用(宅地開発)の範囲を極力限定することを基本とし、土地所有者の意向との調整を図る。
- 里山を生物多様性の向上とともに新しい生産の場、活用の場として位置づけて再生を進める。

(木津北・東地区土地利用検討会(平成15年度)報告書概要版より <http://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/10,2591,c.html/2591/20120329-180951.pdf>)

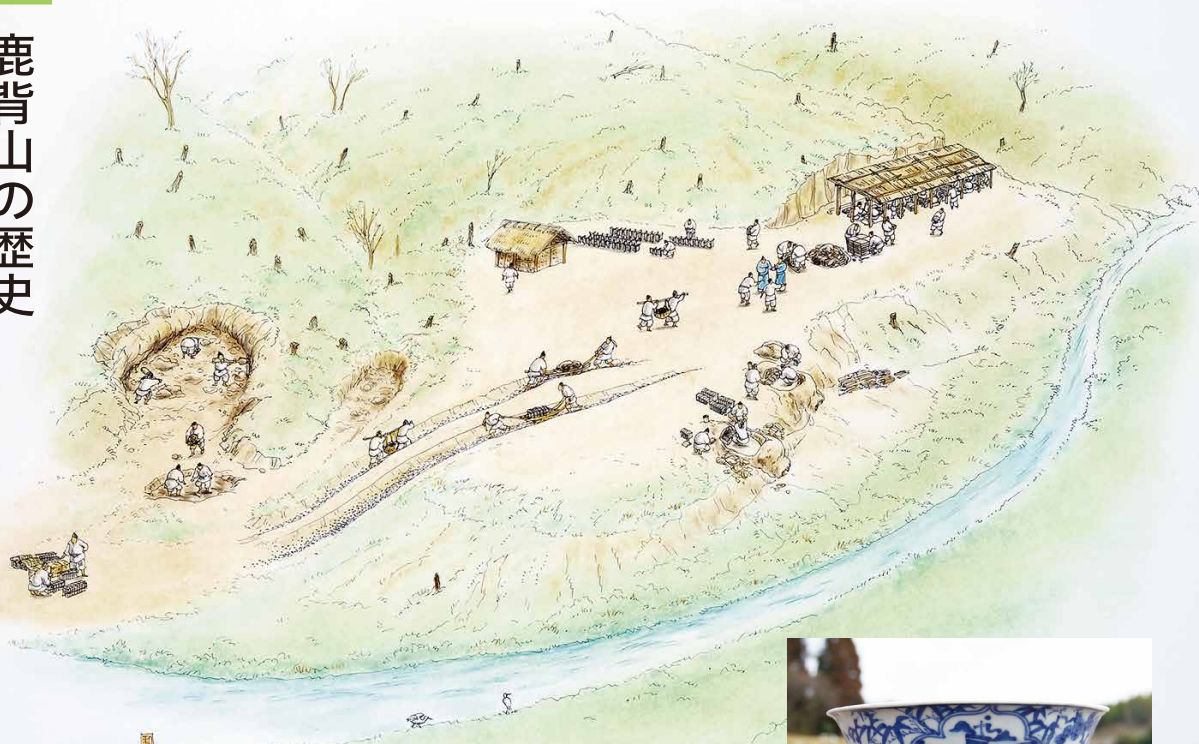


SATOYAMA:

国連の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10、2010年開催)において、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPS1)への参加要請等の決定が採択され、国際的に通用する言葉となりました。SATOYAMAは、自然と共生する人間社会の知恵と技術を、生物多様性の保全及び持続可能な社会づくりに活かすためのシンボルになっています。

(環境省ホームページより引用)

鹿背山の歴史



早川和子作「鹿背山瓦窯図」(京都府埋蔵文化財調査研究センターより提供)
奈良時代には平城京の主要施設の瓦を作る工房があり、国指定の史跡になりました。



鹿背山焼

鹿背山は『万葉集』にうたわれ『続日本紀』にも登場する1300年の歴史ある里山です。奈良時代、聖武天皇の天平12(740)～16年にかけて、ここには恭仁京(くにきょう)という都が置かれました。たった3年間でしたが、泉川や鹿背山の里山をくみこんだ広大な都市となるはずでした。

「三諸(みもろ)つく
鹿背山の際(ま)に
咲く花の 色めづらしく
百鳥の声なつかしく」
(萬葉集 巻6 1059)

これは過ぎ去った恭仁京をなつかしむ歌です。「みもろつく」とは「神さまをまつ」という意味の枕詞で、大和三輪山と鹿背山にだけかかる言葉です。鹿背山は神の坐す「カムナビの山」であり、恭仁京のランドマークと考えられています。

こうした神秘的なあゆみを系譜にもつ鹿背山ですが、その後、その麓に村ができ、良質の粘土を産出する特性から、瓦や焼物の製造がさかんとなり、その窯が村内の到るところにでき、今に遺されています。とくに江戸時代後期には、「鹿背山焼」と呼ばれる青磁器がつくられ、中国の景德鎮をはじめとした青花に縁をもつ、芸才溢れる染付芸術が鹿背山の里山で花開きました。

恭仁京
(足利健亮氏がその復原案を提示)

鹿背山の西方を取り巻く路を分離線として、奈良の平城京と同じような左京・右京を配する、また、平城宮と同じ大極殿を山背国分寺があったあたりに施入するというものでした。恭仁京、鹿背山と木津川(当時泉川と呼ばれた)、その山川の配置、みやこの南に配する地理的構造は、門脇禎二氏(1991)によれば、古代中国における天の祭祀、「祭天の思想の表現」であったのではとも説明されます。

また、江戸時代、陽明学の中興の祖、熊沢蕃山は大和吉野山から、鹿背山に居を遷し、里山の自然を楽しみ、うたを詠みながら、学問や見識を深め、人生を達観し、その後の学問の深化に大きな影響を与えたと言われています。明治時代になり、民権運動の拡がり南山城でも起こり、農村の教育機関が多く起こりました。今の京田辺にあった「南山義塾」が有名ですが、鹿背山にも「鹿背山共練舎」という教育と演説の結社があり、法律を学び、互いに意見を交換して、親交を深め、民権を拡張するまちづくりの議論の場が実践されていました。

こうした地域に根付く神仙思想と近代からの地域の人々自らの手による芸術や技術、学び、まちづくりの場が鹿背山の里山で発達していきま

参考文献 ・木津町史(木津町、1984)

・日本古代地理研究一畿内とその周辺における土地計画の復元と考察(足利健亮、大明堂、1985)
・けいはんな風土記(門脇禎二監修、関西文化学術研究都市推進機構、1990)

参考情報 ・大和文華館特別企画展(2021.2.9～4.4)中国青花と染付磁器 一京都の鹿背山焼一(公益財団法人 大和文華館)
<https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/yamato/exhibition/kaseyamayaki.html>

みもろつく鹿背山再生プラン

都市開発が中止となった木津北地区（鹿背山の里山）に対して、活動団体と市が協議会を設けて、2014年に「生物多様性木津川市地域連携保全活動計画」（愛称：みもろつく鹿背山再生プラン）が策定されました※。

※木津川市のホームページ
<http://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/10,11003,47.html>



これは、京都大学名誉教授の森本幸裕さんが協議会会長としてとりまとめたもので、短期の目標（～2019年）を「地域文化やコミュニティの良さを子どもや若者に伝え、持続可能な組織づくり・プログラムづくりによって、活動拠点・道・水辺を整備する」、長期の目標（～2033年）を「農と里地里山の植生に景観の彩りを加え、多様な生き物が住む歴史ある憧れの里づくり」と定めています。

また、木津川市の役割として「拠点等（会議スペース、駐車場及びトイレ）の整備」「管理用通路及び水路等の基盤の段階的な整備」「都市部に住む人々に広くPR・啓発するためのイベント等の取組み」を挙げています。

地域住民、活動団体、市、協賛企業はこの計画の実現に向けて、活動を続けています。

京都大学名誉教授 森本幸裕さんのコメント

利用することで活力（レジリエンス）と生物多様性が維持される里山。それが一方では都市開発で、またもう一方では化石燃料依存で自然資源の管理放棄というダブルパンチを浴びた生き物たち。木津北に残ったオオタカとカスミサザンショウウオをシンボルに、「生物多様性地域連携促進法」に基づく全国2番目の里山再生プラン「みもろつく鹿背山再生プラン」が活動団体、行政と私たち研究者のワークショップでできたのは2014年。里山と地元の小学校の連携をめざす活動も始まりました。

ささやかながら、ますます深刻化する地球環境危機の時代と、更に新型コロナウイルス感染症対応を考えると、木津北の里山活動は、ポストコロナの時代のひとつの再生モデルとなるはず。身近な自然は、幼少期からの健全な心身発達と、自然免疫系を健全に保つ健康インフラでもあります。環境省の提唱する「地域循環共生圏」をけいはんなで展開する貴重な拠点となるでしょう。



河井市長に計画画を手渡す森本名誉教授

千年の里山をつくろう

長年、鹿背山の里山づくりに関わっているランドスケープアーキテクト（景観設計家）の中村伸之さんは里山の未来像を次のように語ります。



中村伸之 さん

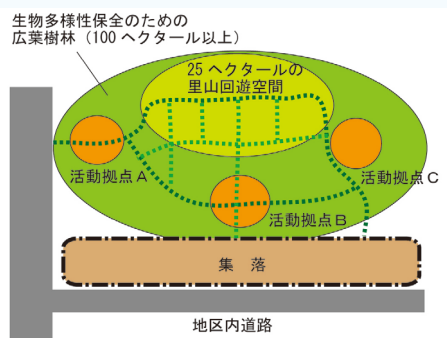
「生物多様性を保全するには、概ね100ヘクタール程度のまとまった広葉樹林（里山）を手入れする必要があります。そのような広大な森を管理するには、市民や行政が支持してくれる動機づけが必要です。

そのためには、まず里庭と回遊路で構成される約25ヘクタールの“里山回遊空間”を整備して、自然再生と憩いと創造の場づくりをしてはどうでしょうか。

里山の入り口には各団体の活動拠点があります。そこを出発点として里山回遊空間を楽しむ。活動拠点では参加しやすいプログラムを実施して、開かれた窓口にする。

このような構造を“空間のインフラ”、それをマネジメントするコミュニティを“人々のインフラ”と呼んで、千年の里山をつくるビジョンを描いています。

日本の絶滅危惧種や身近な生き物の生息地域の5割以上は里山にあり、けいはんな学研都市が持続可能な千年の都となるためにも必要な自然環境です。」



かせやまの未来へ・ 人々のインフラづくり

木津北地区の開発が中止となった2003年から、いくつもの活動団体が里山の手入れを始めました。自然を守っていくという思いを大人たちが共有し、人手が入って歩きやすくなった里山は、食農・子育て・アート・環境など様々な市民交流の舞台となっています。

地元・鹿背山区の人々と里山に可能性を見出す市民や企業がネットワークをつくり、持続可能な社会を支える人々のインフラが生まれています。



鹿背山の陶芸家・ 福田 藍さん

鹿背山では焼き物に適したさまざまな粘土（色土）がとれます。ワークショップをしながら制作をしたり、里山の知識体験をたくさん経験して、いろんな方が自分の里山と想えるようになれば嬉しいと思います。



山城ごはん・堤 明日香さん

“畑で育児”をテーマに食育や環境ワーク、自然とコラボしたアートワークなどの活動に取り組んでいます。大人も子どもも土や農産物と触れ合い、出会った人達との交流の輪が広がり“ずっと住み続けたい場所”“子育てしに帰ってくる場所”になればと思います。



にわや本舗・ 岡田 雅弘さん

鹿背山区の住人で造園業を営み、里山の道づくり広場づくりの伐採作業を担当しています。

鹿背山区では、19歳から21歳までは青年会、22歳以降は消防団で活躍します。自分たちの村は自分たちで守ろうという気持ちが強いです。外に出た人もいつかは帰って来たくるように、自然を守っていききたいと思います。



かせやまの森創造社・ 筒井 康博さん

これまでに約5ヘクタールの放置竹林を7年間で整備完了しました。ボランティア活動を通じ新たな仲間が沢山でき、体力増強、健康も維持できています。鹿背山は豊かな自然に恵まれ、村の少子高齢化が進む中でも、若手を中心に環境保全活動に意欲的なところが魅力です。



鹿背山区青年会・ ひかりさん、ひなたさん

鹿背山は自然が多く、静かでのどかな時間が流れています。他所で暮らしても、きっと鹿背山に戻って来たくなくなります。青年会の活動ではラジオ体操や「区民の夕べ」という盆踊りの準備や司会進行や舞台の幕づくりをやっていて毎年楽しみにしています。



こそだてママnet・ 福井 さなえさん

四季折々の鹿背山の自然に触れ学びながら、子どもたちの年齢や経験に合わせた野外活動クラスを月に3回運営しています。里山では子どもたちの自主的な行動が増え、体力がつき、好き嫌いもなくなると同時に、環境問題についての意識も育まれています。



城山台小学校の里山授業



地元・鹿背山区の皆さんのサポートを受けて、里山の自然を観察したり、木や竹を伐って工作したり、土や木を移植して校庭に里山や田んぼをつくったりしています。



狩猟文化を受け継ぐ・ 大門 啓伸さん

狩猟は趣味であり、子どもたちへの教育の一環として、年間数頭のイノシシやウサギを獲って家族や友人と分けます。目に見えるからこそ、命をいただいて得た肉を大切にしなければいけないという気持ちが生まれます。子どもたちにもそのことを見せてやりたいと思います。



企業のCSR活動 「セキスイハイムの森・木津川」



積水化学グループによる社会貢献活動の一環として、セキスイハイム近畿株式会社と積水化学工業株式会社、木津川市、木津川市地域連携保全活動応援団の4者が2018年3月に協定を締結し、生物多様性保全の森づくりに取り組んでいます。

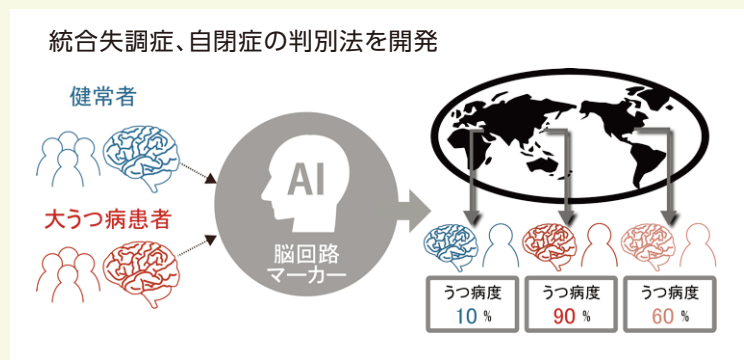
春(5月)と秋(11月)の年2回、竹の間伐、伐採竹を利用した階段作りやベンチ・テーブル作り、イノシシ被害防止柵などの作製などの森林保全活動が行われています。



けいはんな学研都市が掲げるイノベーションの柱に脳情報科学(Brain Tech)があります。科学的な手法を用いて、脳の機能を理解し、医療や高齢者自立支援、人に優しいICT技術、未来のコミュニケーションなどに役立てる「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)」を開発しています。国際電気通信基礎技術研究所(ATR)が続けてきた共同研究のいくつかを紹介します。

● 科学的指標で「心の病」の診断に寄与 ●

うつ病や統合失調症、自閉症スペクトラム症候群、PTSDなど、精神科が扱う心の病は、従来、問診から得られた疾患分類的な診断手法で診断や治療が行われ、生物学的な検査は臨床現場での診断にほとんど利用されてきませんでした。ATRや各大学、研究機関による研究グループは、脳MRIのデータや人工知能(AI)技術を用いて、これらの疾患と脳機能の関係を科学的に解明する実績を重ねており、成果は臨床現場で用いられる日も近いと期待されています。



うつ病患者と健常者を見分ける「脳回路マーカー」を開発

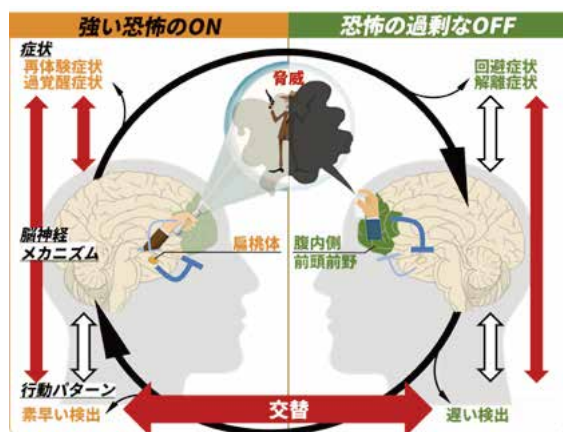
複数施設で得られた機能的磁気共鳴画像(fMRI)データを、研究グループが開発した方法(調和法)に基づいて大規模データとして統合することに成功し、そのデータを用いて健常者と大うつ病患者を判別する「脳回路マーカー」を開発しました。このマーカーは、異なる施設で撮像されたデータでも、健常者と大うつ病患者を約70%の確率で判別でき、施設に関係なく有効であることを確認しました。ベンチャー企業の(株)XNefでは、医薬品医療機器総合機構(PMDA)と相談、開発協議を行っており、2022年度中の承認取得を目指しています。

統合失調症、自閉症の判別法を開発

幻覚や妄想などの精神症状を主とする統合失調症スペクトラム障害(SSD)と、社会性やコミュニケーション傷害などの精神症状を主とする自閉症スペクトラム障害(ASD)には、重複性や共通点があるといわれますが、両者の関係が十分に解明されたとはいえない状況です。研究グループでは脳MRIによる脳機能的結合データと人工知能技術から判別法を開発しました。それにより、統合失調症には自閉症の傾向があるのに対して、自閉症には統合失調症の傾向がないことが明らかになりました。今後の治療に役立つと考えられます。

PTSD患者が示す、恐怖への対照的な反応を解明

心的外傷後ストレス障害(PTSD)の患者は、症状として強い恐怖を示すこともあれば、恐怖を過剰に抑制することもあります。これまでは、果たして同じ患者が双方の特徴を示し得るのか、どちらか一方の特徴のみを示すのか、明らかになっていませんでした。研究グループは世界で初めて、同じ患者が恐怖とその過剰な抑制を交互に繰り返すことを脳科学的なエビデンスとして発見しました。脳内の扁桃体と腹内側前頭前野が代わる代わる相手を抑制する(相反抑制)ことで、恐怖のONとOFFが入れ替わることが分かったのです。PTSDの診断や治療の改善に寄与するとともに、健康な人でもコロナ禍などによる恐怖に襲われた際の心の動きを解明することにつながり、予防や対応に生かせると期待されます。



PTSD患者が示す、恐怖への対照的な反応を説明



● 考えるだけで機械が動く、夢が解読できる… ●

計算論的神経科学などの手法を用いて脳の機能を理解し、得られた知見を基に「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)技術の開発に成功しました。また、寝ているときの夢を解読する「デコーディング手法」また、脳の情報を望ましい方向に導くことを可能とする「デコーディッド・ニューロフィードバック法」を開発、さらなる展開を目指しています。

ヒトの知覚や想像、夢の中身を解読

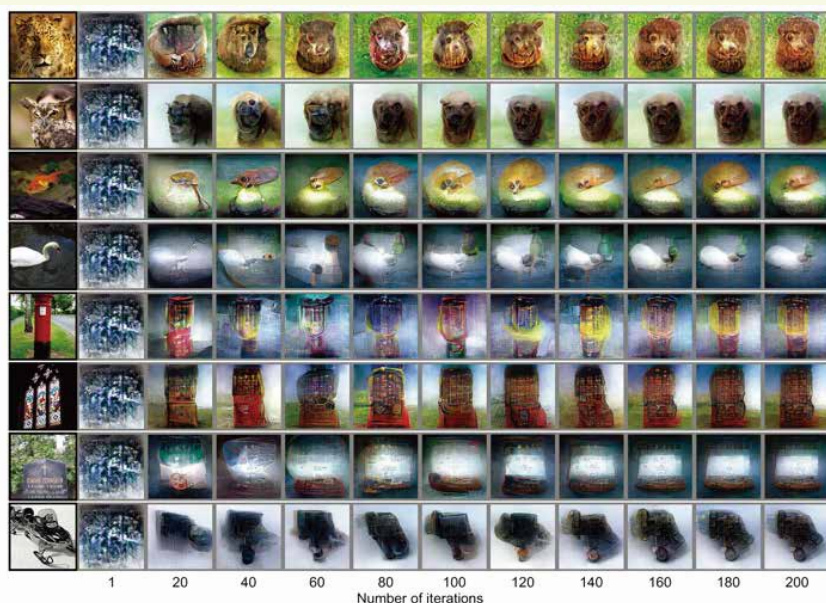
刺激や課題を与えたときの脳活動をマッピングする従来の方法とは逆に、脳活動から情報を解読(デコード)する「脳情報デコーディング技術」を開発、研究を進めています。ヒトの知覚や意図、心理状態などを予測し、身体運動や発声を介さない新たな情報通信技術の確立を目指します。実際に見ている物体の形だけでなく、想像している物体や夢に現れる物体カテゴリーを解読することに成功しています。今後は多様な心の状態を解読する高精度アルゴリズムの開発や、解読結果を利用するアプリケーションなどの開発を進めます。



心的イメージを可視化する 深層イメージ再構成

ヒトの脳と深層ニューラルネットワークの情報表現には相同性(ホモロジー)があることを発見しました。これを活用して開発した、脳から神経ネットワークへの信号変換技術を利用して、人工的な図形や文

字などを含めた任意の画像を再構成することに成功しました。頭で想像している画像を再構成することにも成功しました。将来は、脳を介したより広範囲の情報通信が可能になるかもしれません。



脳の高次機能を神経回路の活動から探る

同志社大学脳科学研究科 神経回路情報伝達機構部門

教授 櫻井芳雄 氏



本研究室では、外部刺激の認知、状況の判断、記憶の形成、行動の制御などを司る脳の高次機能を神経回路の活動から解明しようとしています。具体的には、動物が特定の課題を行っている時、どのような神経細胞から成る神経回路が脳内のどの領域でどのように活動しているのか調べています。これまでに神経細胞の集団「セル・アセンブリ」が記憶などの柔軟な高次機能を実現していることなどを明らかにしてきました。現在進行中の重要な研究を2つ紹介します。

匂いが呼び覚ます記憶や行動は脳のどこで作られるのか？

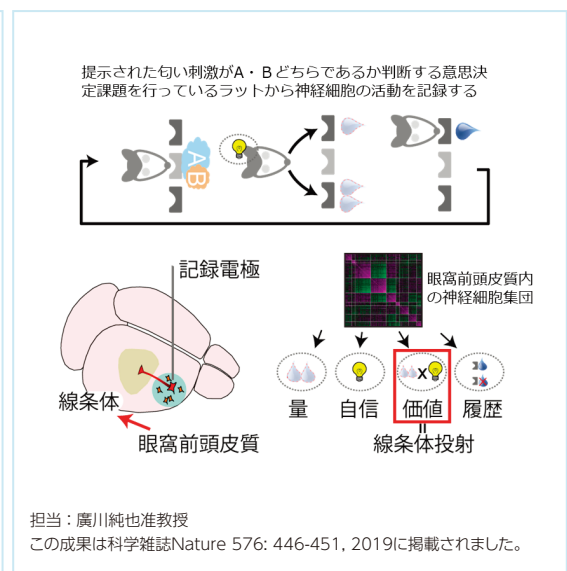
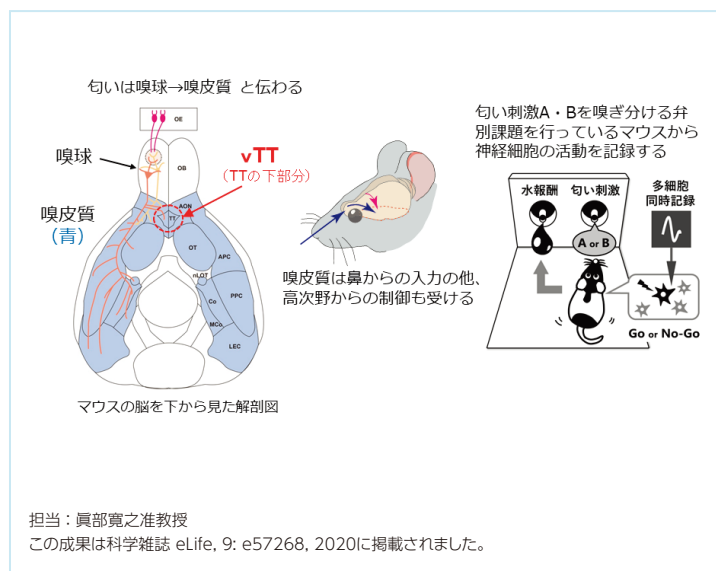
脳のどの部分がどういう仕組みで匂いの情報処理を行っているのかについて、「嗅覚系」の研究から解明することを目指しています。嗅覚系は神経回路のなかでも、比較的シンプルな経路で、大脳皮質の一部である嗅皮質に匂いの情報を伝達します。嗅皮質はまた、情動や記憶などを担う脳領域にも直結しています。嗅皮質の働きについては、まだわからないことが多いのですが、嗅皮質で匂いとエピソードをつなぐ連合記憶が作られると考え、マウスを使ってそのような連合記憶を作る際の神経細胞の活動を解析しています。現在、

嗅皮質内の前梨状皮質という部分が匂いとエピソードを連合するために活動していることを明らかにしています。また、嗅皮質の中でもこれまで全く未解明であったvTTという極小領域にも着目し、vTTが単に匂いの情報処理だけでなく、匂いに基づく多様な行動にも関連して活動していることを明らかにしました。

依存症やうつ病はどのような脳内メカニズムで生じるのか？

脳の司令塔といわれる前頭連合野が他の脳領域をどのように制御しているかについて、特に「意思決定」に焦点を当て探研究しています。すでにコールドスプリング

ハーバー研究所(アメリカ)との共同研究により、適切な意思決定を可能にする神経回路を特定しました。そしてそのような神経回路が、意思決定に必須である「これまでの経験、報酬の量、内的な自信」などの基本情報を持つ神経細胞集団と、それらを統合した「価値情報」を持つ神経細胞集団から形成されていることを明らかにしました。さらに、そこで統合された価値情報が、前頭連合野内の眼窩前頭皮質から大脳基底核の線条体へ伝達されていることもわかりました。このような情報伝達が正常に行われない場合、意思決定に障害が起こり、依存症やうつ病などを発症すると考えられます。精神神経疾患に対する効果的な治療方法にも直結する画期的な成果と考えています。



国務大臣が相次いでけいはんな学研都市を視察

井上信治 科学技術政策担当相、河野太郎 規制改革担当相



理研からiPS説明

井上信治内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)が12月11日、理化学研究所(RIKEN)、情報通信研究機構(NICT)、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)を訪れ、iPS創薬やロボティクスプロジェクト、



多言語音声翻訳技術や社会知解析技術などの先端研究に触れられました。また、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)ではメタコンフォートラボやけいはんなロボット技術センターなど、イノベーション創出のための拠点を視察。今回の視察は関西の産学官でつくる「関西文化学術研究都市建設推進協議会(会長・松本正義関西経済連合会会長)」の要望活動を契機に実現したもので、万博担当も兼ねる井上大臣は、それぞれの説明に熱心に耳を傾けられ、大阪・関西万博での技術活用についても期待を示されました。

また、12月20日には河野太郎行政改革担当・国家公務員制度担当・内閣府特命担当大臣(規制改革・沖縄及び北方対策)がATRを訪れ、日常対話アンドロイド等、石黒浩特別研究所の研究成果を視察され、



日常対話アンドロイド「ERIKA(エリカ)」

意見交換を行いました。これを受け、人工知能(AI)やロボットを活用した社会の実現と、少子高齢化などの問題解決に向けそれらの技術を役立てるため、規制緩和を推進する考えを述べられました。



けいはんなサイエンスカフェ開催

けいはんなサイエンスカフェは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により昨年3月より開催を見送っていましたが、8月よりオンライン開催に切り替え、再開しました。

当日はWEB 会議システム「zoom」を利用し、第83回の盛岡氏は沖縄から、第84回の塚本氏は大学からオンラインで講演、

参加者も北海道、東京、神奈川、富山など、遠方から参加があり、講師も参加者も顔が見える状態での質疑応答では、リアル開催と変わらない交流が図られました。

開催後のアンケートでは、「オンライン開催であったので、もともと興味があったサイエンスカフェに参加できた」「家から気軽に参加することができ良かった」等、オン

ライン開催について好意的な意見が多く寄せられました。

当面はオンライン開催となりますが、気軽に参加いただけるイベントですので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

けいはんなサイエンスカフェの開催案内は、推進機構ホームページ、けいはんなポータルでお知らせします。

「CASE」の始まり



※2017年には、より高度化した小型モビリティ「Vision EQ」を発表。

第83回(2020年8月)

『早わかり& 深掘り「CASE」と「Maas」
～マイカーと公共交通は今後どう進化するのか～』

株式会社 リゅうにちホールディングス モビリティ事業部 部長 盛岡 康博 氏



第84回(2021年1月)

『ダチョウの良いところを見つけました』

京都府立大学 学長 塚本 康浩 氏



ダチョウのいいところを見つけました。
学長 塚本 康浩
京都府立大学

グローバルスタートアップ支援プログラム「KGAP+」が 第4期成果報告会をオンラインで開催

第3期優秀企業賞受賞企業も登壇



ATRとけいはんなリサーチコンプレックス推進協議会が、グローバルスタートアップ支援プログラム

「KGAP+(Keihanna Global Acceleration Program Plus)」

第4期のフィナーレ

「KGAP+DAY -Batch 4 DEMO-DAY-」を2月19日にオンライン開催しました。

第4期は、国内外のイノベーション拠点機関等との連携による予選会を経て10カ国54社から6カ国13社が選出され、昨年11月10日にスタート。参加スタートアップは、大手企業等との協働での製品・サービスの実証を目指し、日本市場に向けたビジネスモデルのブラッシュアップや協業候補の日本企業とのオンラインミーティングに3カ月間積極的に取り組みました。ATR事業開発室や関西文化学術研究都市推進機構超快適スマート社会推進室、京

都産業21とともに、ジェトロや京都府、大阪府、京都知恵産業創造の森、金融機関、投資家、事業会社等の面々がメンターとして幅広いネットワークで強力にサポートし、14件のマッチングが実施されました。

成果報告会では、参加スタートアップがこれらの取り組みを交えながら協業パートナーや顧客をさらに求めてカナダ、アメリカ、日本、インド、イスラエル、フィンランドをライブリレーし熱いピッチを繰り広げました。また、7月下旬から10月末に実施した第3期の優秀企業賞受賞企業6社とATRが連携する品川ビジネスクラブから「第11回ビジネス創造コンテスト」グローバルビジネスマッチング賞受賞者も登壇。様々なスタートアップ企業の革新的・先進的な技術・サービスを紹介する場となり、国内外から延べ271名が参加して盛況のうちに閉会しました。

昨年7月に国からスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市の一つに「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」が選定され、関西のスタートアップ支援機関は連携を深めています。その一環としてKGAP+第4期も京都府・京都市・大阪府・大阪市・兵庫県・神戸市とともにジェトロ・経済産業省の支援を受けるRegional Business Conferenceプログラムとして実施されました。また、成果報告会は、各国大使館等過去最多の機関にご協力いただくとともに、国際イノベーション会議HackOsakaとの連携イベントとして開催しました。この気運の高まりを追い風にグローバルなスタートアップ支援やエコシステム構築を推進していきます。



登壇企業の情報およびイベントの録画をけいはんなリサーチコンプレックスのウェブサイトで公開中
<https://keihanna-rc.jp/events/event/kgap210219/>



新たなビジネスモデルの確立に向けた自動運転サービス実証事業を実施

WILLER株式会社、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構、株式会社けいはんな、株式会社ピノスは、京都府の「コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金」を活用するとともに、「けいはんな公道走行実証実験プラットフォーム」(K-PEP)の支援を受けて、2月13日(土)から19日(金)までの15日(月)を除く6日間、けいはんな学研都市(精華町)において、コロナ禍の中でも安心して外出できるサービスによる地域全体の健康増進と経済活性化を図る「けいはんなモデル」を検証するため、「ニューノーマルに対応した健康プログラムとMaaSのけいはんなモデル実証事業」に取り組みました。

この実証実験では、自動運転バスが、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)から「けいはんな記念公園」やけい

はんなの住宅街までのおおよそ5キロの公道を時速15キロで走りました。

新型コロナウィルスの感染拡大で自宅にこもりがちとなる中、自動運転バスの利用が気軽に外出するきっかけにつながるかどうか、参加者に自動運転バスに試乗いただくとともに、「けいはんなプラザホテル」でフィットネスを行っていただいたり、ホテルの客室でテレワークを体験いただいたりしました。

今後、これからの人口減少や少子高齢化による将来的な運転手不足の解決策となるかどうか、既存交通の代替としての自動運転ではなく目的に合わせた新たな移動サービスといった新たなビジネスモデルが確立できるかどうかなどについて、評価・検証を行っていく予定です。



一般車両混在状況の中での「自動バレーパーキング」の実証実験を実施

株式会社ゼロ・サム及び日本信号株式会社は、公益財団法人京都産業21の「企業の森・産学の森」推進事業の一環として、「けいはんな公道走行実証実験プラットフォーム」(K-PEP)の支援を受けて、2月1日(月)、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)で、自動運転車両と一般車両が混在する駐車場において、自動運転車両が最短のルートを検知して走行・駐車する「自動バレーパーキング」の実証

実験に取り組みました。

実証実験を可能にしたのは、ゼロ・サムの複数車両に対して同時に最適経路を案内するナビシステムと日本信号の駐車場内を見渡せるAI搭載カメラを活用した駐車場管制システムであり、自動運転車両と一般車両が混在する状況での「自動バレーパーキング」の実証実験は、これが全国初となります。

実証実験では、自動運転車両が一般車

両と衝突しそうになると、管制システムが走行経路を示し、自動運転車両が停止・後退して進路を譲り、駐車できる位置までの迂回ルートを通して走行・駐車しておりました。

今後、駐車場内での渋滞解消や事故リスクの低減等に活用されることが期待されています。



自然のとなりでテレワーク 相楽東部サテライトオフィス無料体験を実施



和束町の茶畑景観



南山城村高山ダム訪問



木津川の流れを見ながら仕事ができます

古民家の太い梁、葎葎、掛軸、居間の空間を活かし
リノベーションされた笠置テラス

相楽東部3町村(和束町、笠置町、南山城村)、京都府等で構成する相楽東部「ひと・企業」誘致促進協議会は、関西文化学術研究都市推進機構と連携し、けいはんな学研都市内の住民や働く人を対象に、「相楽東部サテライトオフィスお試しテレワーク」(2月24、26日、3月1～5日)を実施しました。これは、コロナ禍において、都市部で働く人の新しい居場所を提案するとともに、相楽東部地域の魅力を発信し、働き方改革を支援するものです。

普段の職場や自宅とは異なる、美しい茶畑景観や歴史と文化に育まれた自然豊かな相楽東部地域での仕事環境の無料開放と、フィッシングエリア利用やマウンテンバイク、パワースポット巡りなどのワークেশョン体験も特別価格で提供されました。

サテライトオフィスまでは、学研都市(精華・西木津地区)から車で1時間以内とアクセスも良く、古民家をリノベーションした笠置テラスでは、眼前に木津川の流

れが広がります。参加者からは「眺望が目の前に広がり気分よくパソコンに向かえた」、「和束・南山城はお茶のふるさと、美しい村の味をテレワークの合間にたのしめる」、「フィッシング体験で懇切丁寧な指導をしてもらい、ニジマスが釣れた」、「素晴らしい機会でした。子どもを連れてリピーターになります」、「東海自然歩道、奇岩巡りや歴史文化産業土木遺産見学など散策にも素晴らしい」など好評価の声が聞かれました。

対象となったサテライトオフィス

- ① 和束スマートワークオフィス(京都府相楽郡和束町中平田23-1) 利用時間:平日午前10時～午後5時
<https://gjtea.org/smartwork/>
- ② 笠置テラス(京都府相楽郡笠置町市東畷23) 利用時間:平日午前9時～午後8時
http://www.town.kasagi.lg.jp/contents_detail.php?co=kak&frmlid=728

和束スマートワークオフィスでは
和束茶のセルフサービスコーナーもあります

【オフィスにおける新型コロナウイルス対策】

カウンター席(一席空席を隔てた等間隔)のみの使用として座席数を制限。アクリル板等での仕切の設置、消毒アルコール液の配置等による防止策を実施。

お問い合わせ先 相楽東部未来づくりセンター

京都府相楽郡笠置町笠置上津57 <https://activity.kyoto.jp> 担当:山本 勇人 h-yamamoto22@pref.kyoto.lg.jp TEL:0743-95-2155



科学のまちの子どもたち

「けいはんな科学体験フェスティバル2021」開催!

2月13日～28日

オンラインワークショップ

サイエンスショー

内容：「浮き球実験」「サイエンスマジックーお茶が水にへんしん!?!」

講師：福岡亮治氏(大阪成蹊大学准教授)

当日のサイエンスショーは中止になりましたが、撮影した動画を精華町HPでも公開中(期間限定)



今年で7回目となるこのフェスティバルは、「科学のまちの子どもたち」プロジェクトを推進している「けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク(愛称: K-Scan)」が主催し、「けいはんな学研都

市および周辺地区の研究機関、企業、教育団体、教育関係者等が一堂に会し、科学工作や科学体験などを通じて、子どもたちに科学のふしぎやおもしろさを体験する機会を提供する」ことを目的としています。

今回はプラザ会場が中止になりましたが、京都だけでなく関東や九州地方からも約650人の応募があり、オンラインで350人が参加しました。



参加者感想

●初めてのオンラインイベントへの参加でしたが、まるでその場で教えていただいているような感じでした。

●家にいながらこんなに楽しい実験ができるなんて、最高です!

●子どもは車椅子生活を送っていて、オンラインでしか叶わない企画への参加でしたので、本当にありがたかったです。

●コロナで子供達は沢山の我慢を強いられていますが、このようにリモートでの機会は平常ではなかった出会いもあるものですね。本当に貴重な体験をさせて頂きました。

協力団体

大阪人間科学大学・相愛大学、京都大学理学部 サイエンス連携探索センター(SACRA)、けいはんな記念公園、けいはんな子ども天文クラブ、システムステラ、(株)島津製作所 島津ぶんせき体験スクール、島津製作所 創業記念資料館、奈良教育大学、(株)堀場製作所

主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク【K-Scan】

共催：精華町、(公財)関西文化学術研究都市推進機構

助成：(公財)京都オムロン地域協力基金

AI導入の具体的事例を紹介

「第3回AI・IoT・ロボット導入による生産性向上支援セミナー」開催

2021年2月8日(月) 14:00～17:00

会場：京都経済センター 及びオンライン同時配信

本セミナーは「京都の未来を拓く次世代産業人材活躍プロジェクト」のけいはんな学研都市担当として、参加企業のネットワークによる自社の生産性向上・魅力度アップ等を実現し、良質で安定した雇用創出の支援を目的に開催しました。緊急事態宣言が延長となった初日ということもあり参加者の大半がオンラインで参加。本セミナーでは、第2回に引き続き生産性向上の実例として、さまざまな分野で実際にAIを導入した5社の事例を紹介しました。

AIによる生産性・収益率向上、働き方改革の具体的事例、ちょっと困ったことを解決する手段としてのAI活用の提案、また、ものづくり企業がAIを使うことを考え始められるインパクトのある講演など、AI導入

の多くのメリットを実感できる機会となりました。

オンライン開催にあたり、アイ・オーシステム株式会社(代表取締役 井上 恵介)が独自開発したオンライン配信システム「菟

道亭(とどうてい)」を利用しました。講師と視聴者共にオンラインと会場の2パタンの参加という複雑さから運営での課題も見つかりましたが、遠方からも参加があり、オンライン開催のメリットが生かされました。



けいはんなオープンイノベーションセンターに「Fabスペース」を開設



～オープンイノベーションによる“ものづくり”を加速～

このたび、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)に、ものづくりを支援する「Fabスペース」をオープンしました。

このスペースは、けいはんなリサーチコン

プレックス事業で導入した3Dプリンター、レーザーカッター、CNCフライス盤などの多様なデジタルファブリケーション機器を貸出し、大学や企業の異分野交流による研究開

発、スタートアップ企業の試作、青少年のものづくり体験などを支援する、地域に開かれたものづくりの支援の場です。多くの皆様のご利用をお待ちしています。

貸出機器	利用料 ※(1時間当たり)	特徴	営業時間 平日 午前9時～17時
	大型レーザーカッター	880円	2次元画像データで高速で材料の切り抜き加工等を行えます。
	熱溶解積層方式 3Dプリンター	880円	比較的軽量で硬度を有する部品の出力が可能。試作における製品のデザイン確認や、組立特性の評価などが迅速に行えます。
	光造形インクジェット方式 3Dプリンター	1,980円	数ミリ単位の精度を要する部品のデザインと接合確認が容易に進められ、試作の費用と時間を大幅に圧縮することができます。
	CNCフライス盤	1,100円	樹脂、FRP、木材の削り出しによる3Dの造形ができます。

※材料費は実費をいただきます。

詳しくは、<http://kick.kyoto/fab-space/> をご覧ください。

問い合わせ先 (公財)京都産業21 けいはんな支所(KICK事務局) TEL.0774-66-7545 kick@ki21.jp

けいはんなとつながる「けいはんなリンク」

けいはんな学研都市が掲げるイノベーションの推進のためには、人の交流が欠かせません。そこで、オンライン上でもけいはんな学研都市の立地企業や施設とつながることができる機能を持った「けいはんなリンク」を開設しました。

けいはんなバーチャルラボトリップ

けいはんな学研都市の立地企業・施設を360度空間で巡ることができます。Googleマップや一覧からお目当ての立地企業・施設を選び、実際に訪問しているかのように建物の外観からエントランスを通して中に入ることができます。製品や機械、展示物などの解説、画像、動画、HPへのリンクなどが表示されるクリックポイントから必要な情報を簡単に得ることができます。

けいはんな商談ナビ

けいはんな学研都市にどのような企業施設があるのかを調べたいときに、業種や所在地などで検索して、法人概要や製品、技術などの最新の情報を得られます。また、ニーズ情報・シーズ情報を入力することにより、オンラインで商談ができます。

けいはんなVoice

けいはんな学研都市の立地企業・施設の代表者や技術者が、自社・施設の強みや製品、成り立ちなどについて語る動画集です。ビジネス利用も想定し、取引先の製品や技術力に加え、代表者や担当者の人柄が垣間見えるインタビュー形式で作成しています。

けいはんなOnline Cafe

立地企業・施設とビデオチャットができます。ビデオチャットには3つの機能が付随しています。

①ホワイトボード機能

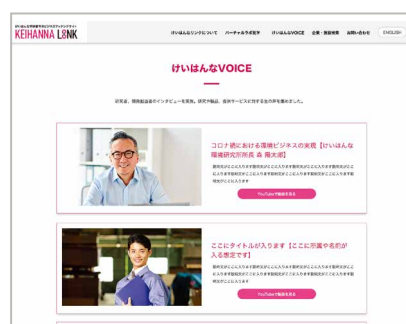
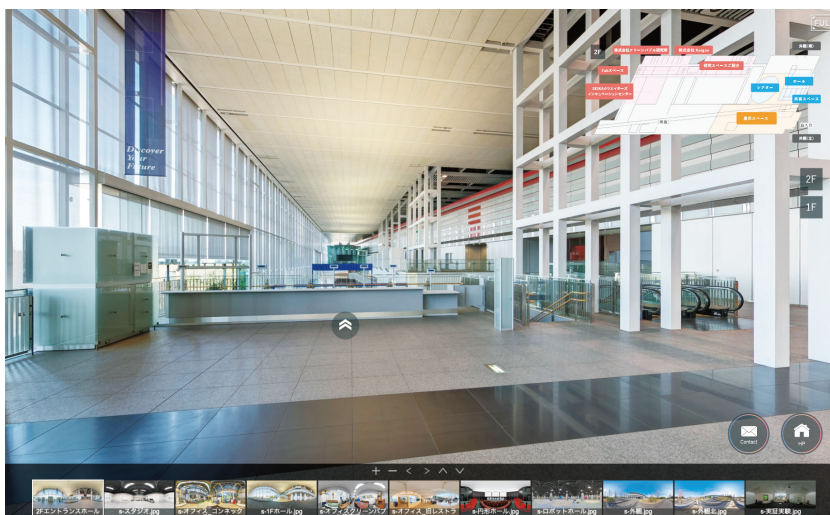
現実世界のホワイトボードのように自由に書いて消せるウィンドウを画面上に表示し相手と共有できます。言葉だけでは伝えにくい場合に図やメモ書きを共有しながら意思疎通を円滑に進めることができます。

②音声入力機能

打ち合わせ内容を後で確認する場合や議事録作成のときに便利に使えます。

③多言語翻訳機能

Google翻訳の機能を活用して、音声入力した文章を多言語翻訳します。外国の方と打ち合わせを行うときの言語の壁を緩和します。



■掲載企業・施設募集

けいはんなリンクでは、けいはんな学研都市の立地企業・施設を対象として、情報の登録を随時お願いしています。登録いただくと掲載情報の編集やオンラインコワーキングが行えるアカウントを発行します。

■お問い合わせ先

関西文化学術研究都市推進機構
shien@kri.or.jp

バーチャルを活用した魅力発信！

⇄ 精華町



これまでから精華町では、サブカルチャー分野における世界最大のイベントである「コミックマーケット」などへの出展を行い、特産品の販売や町のPRを行うなど、町広報キャラクター「京町セイカ」を活用しながら、首都圏などに向けたシティプロモーション活動に取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、「コミックマーケット」を始めとする各種イベントが中止となり、シティプロモーション活動が思うように展開できないなか、新たに取り組んだ学研都市精華町らしいICTと融合したバーチャルを活用した魅力発信精華町の取り組みを紹介します。

京町セイカ

2013年7月に、町が発信する様々な行政情報や広報活動を町民の皆さんにわかりやすく伝え、興味を持っていただきやすくするため、世界に誇る文化・芸術・研究の拠点「関西文化学術研究都市」の最先端科学と、「日本書紀」にも記録が残る本町の悠久の歴史を融合した、「『過去・現在・未来』を行き来する未来からの使者」をコンセプトにデザインしたキャラクターとして誕生しました。

〒619-0285 京都府相楽郡精華町大字南稻八妻小字北尻70番地
TEL.0774-94-2004(精華町役場代表)
FAX.0774-93-2233(総務課)
URL. <https://www.town.seika.kyoto.jp>



精華町ふるさと納税特設サイト
URL. <https://furusato-seika.jp/>



精華町観光ポータルサイト
URL. <http://www.town.seika.kyoto.jp/kanko/index.html>





けいはんな記念公園360度画像

行政初！Vketへ出展

「VIRTUAL MARKET」（通称『Vket』）は、インターネット上のバーチャル空間で開催される世界最大級のマーケットフェスティバルで、来場者は、自宅のパソコンから3Dアバターを操作し、バーチャル空間を自由自在に動き回り展示物を見ることができます。

精華町では、2020年12月19日から2021年1月10日にかけて開催された同イベントに、行政として初めて出展しました。

町の魅力発信をテーマにバーチャル空間に設けた精華町ブースでは、けいはんな記念公園などの3D映像を通じた精華町の名所を体感していただくことができるほか、ふるさと納税の返礼品としても人気の洛いも焼酎「精華の夢」を使った特別映像の配信などを行いました。

今回のイベント出展を通じて、新型コロナウイルス感染防止で求められる3密回避やステイホームに配慮しつつ、イベントをきっかけに、遠方の方やこれまで精華町のことを知らなかった方に、来町意欲やふるさと納税への関心を高めることができ、関係人口の拡大にもつながったと考えています。



洛いも(ダイショ)



洛いも焼酎「精華の夢」 ※ふるさと納税返礼品ラベル



洛いも焼酎「精華の夢」特別映像



精華町ブースを見学する来場者



記念写真を撮る来場者

洛いも焼酎「精華の夢」

精華町の特産品「洛いも（ダイショ）」は、山の芋系の粘りが強い芋で、夏にはハート型のかわいい葉がたくさん茂って環境に優しい緑のカーテンとなり、秋には収穫が楽しめる、一石二鳥の優れたものです。栽培研究に取り組んだ京都府立大学と精華町との間で結んだ連携協力包括協定により技術が継承され、栽培が始まりました。洛いも焼酎「精華の夢」は、焼酎の本場である鹿児島大学の研究協力で得られた配合割合により、奈良県の蔵元で丹精込めた下処理を手作業で行う拘り仕込み。芋焼酎独特の臭みがなく芋焼酎が初めての方でもすっきり飲みやすい「白」と芋の豊潤な持ち味とコクを楽しめる「黒」がありますので、是非飲み比べてください！

商品名：洛いも焼酎「精華の夢」白・黒

内容量：720ml

価 格：白2,000円/黒2,500円(税抜き)

原材料：洛いも(ダイショ)/精華町産、米こうじ/精華町産米
アルコール分25度

蒸留方法：白・減圧蒸留/黒・常圧蒸留

問い合わせ先：精華町洛いもグループ

TEL. 0774-94-5140

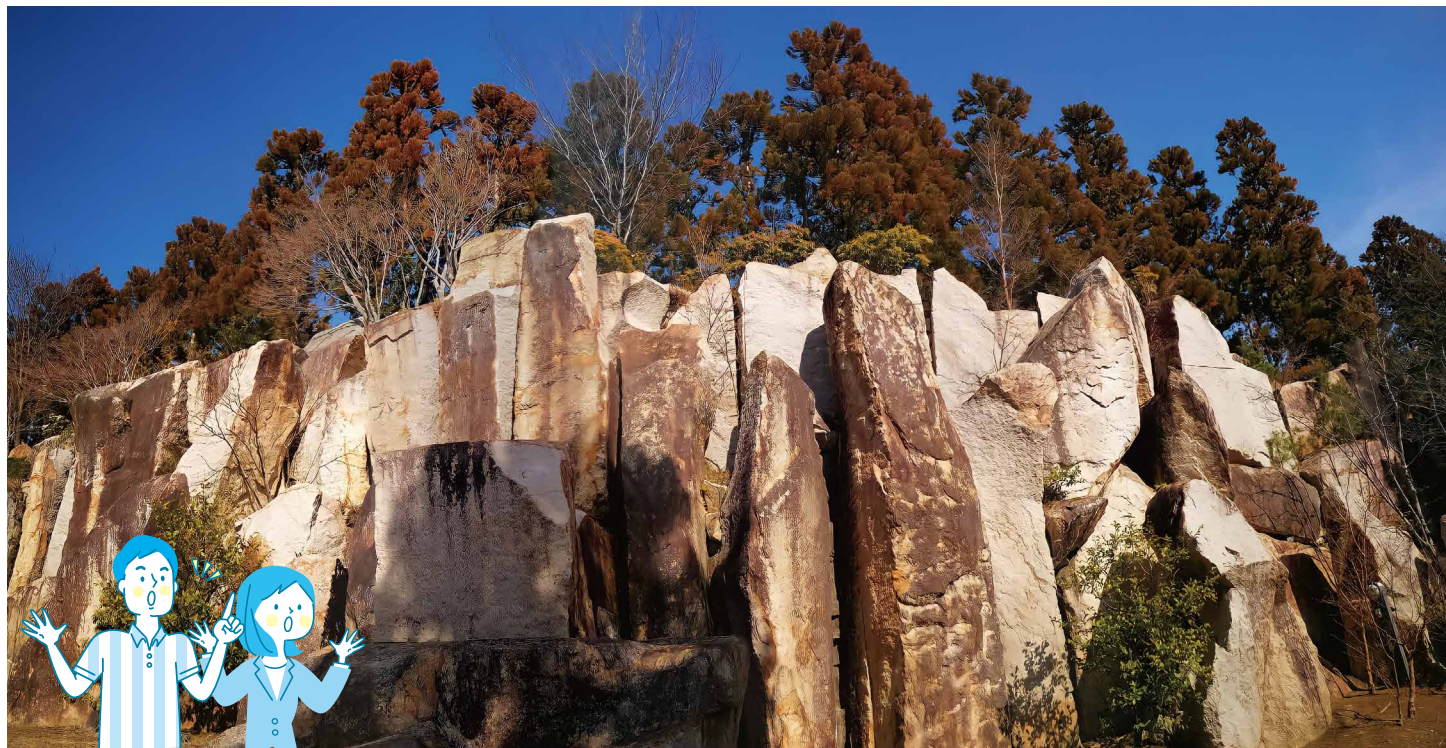
FAX. 0774-98-2033

E-mail: info@lakuimo.sakura.ne.jp





「記念性」 思いめぐる けいはんな過去未来旅



けいはんな記念公園の巨石群

迫りくる巨石群。その先に広がる穏やかな農の景、水辺と里山の風景とは対照的に、岩肌に荒々しい自然の力がみなぎる。公園にもたらされた巨石のルーツを知れば、かつて運搬手段が限られていた遠い時代にも思い巡らせ、岩の壮大さに、そういえば周辺にも巨石がいくつかあったなと思ひ出す。

歴史的文脈の豊かな地－けいはんな。ここで創出されたランドスケープ、自然と人間との関わりと、“時の流れ”を超越した「悠かな未来」を感じながらしばらく時を過ごし、お隣りの国立国会図書館関西館で、歴史の文献を渉猟する。さあ、資料を片手に、まずは巨石をテーマにこの地域の過去をめぐる旅に出かけよう。



犬島をルーツとする石をめぐる



平城宮跡の朱雀門



みんなのふれあい広場

高さ6～7m、全長150mにわたり屏風状に配置された約500個の石組みで構成され、巨石一つあたりの重量は約20～40tで、最も重いものは70tに達する。200tクラスの大型クレーンなど、現代の技術を用いて造り上げられた。

石の由来は、「鑄石」ともよばれる岡山県犬島産の御影石。1993年の公園建設時、犬島で切り出された巨石は船で大阪湾へ。そこから夜明け前にトレーラーで運ばれてきた。「人間と自然とのかわり」が表現されている水景園において、巨石群は太古の荒々しい未踏の自然を表象している。

司書のおすすめ本

『犬島ものがたり：犬島の石嫁ぎ先発見の旅』（2010年）

各地で使われている犬島の石を写真付きで紹介している。

現代アートの島として有名な瀬戸内の「犬島」。かつては採石地として知られ、その良質な御影石は、各地で使われている。



犬島をルーツとする石は、徳川氏による大阪城修築の際の石垣や、鶴岡八幡宮の大鳥居。近くでは、近鉄高の原駅舎の石組である「みんなのふれあい広場」や、1998年2月に復元された平城宮跡の朱雀門でも、柱を支える礎石として使われている。

司書のおすすめ本

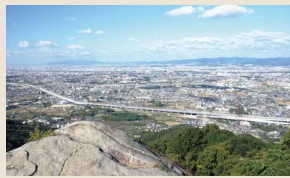


門脇禎二監修

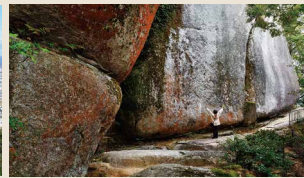
『けいはんな風土記』(1990年)

京阪奈丘陵の歴史、風土を読むなら、まず最初に手に取りたい一冊。関西館では、「学研都市コーナー」に展示されている。

巨石をめぐる



交野山観音岩



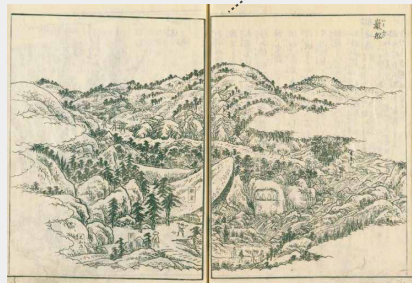
笠置寺 伝虚空蔵摩崖仏

巨石に関する資料。鉱石学、地質学、民俗学などから資料が揃う。

各地の地方史誌が一か所に集まっているのは関西館ならではの、どこへ歩きに行くのにも、基本的な資料を確認できる。近隣の山々をめぐる際にも読んでおきたい。

図書館で巨石について調べてみたら、読みたい資料がたくさん集まった！

関西館の巨石に関する資料群



江戸時代の旅行ガイドブック『河内名所図会』(1801年)に描かれた石船巖(交野市)。名所図会類には、京阪奈各地の巨石も多々描かれている。



安政江戸地震(1855年)を描く絵巻『江戸大地震之絵図』に描かれた要石。地震を抑えるとされる要石に、人々が手を合わせ拝む様子が描かれている。

「柳生の一刀石」(『少年少女日本の民話・伝説 3』(1963年)所収) 石舟斎(柳生宗厳)が切ったと伝える話も、国立国会図書館デジタルコレクション(デジコレ)で読むことができる。



柳生の一刀石

記念碑をめぐる



通水碑



四分六分石(復元)

けいはんな記念公園内には、煤谷川から水を引く用水隧道の完成記念碑として大正時代に建立され、区画整理事業により移設された「通水碑」や、灌漑用水路が二つの地区へ分かれる地点で水量を配分するための「四分六分石(復元)」がある。どちらもかつての農村の生活環境を彷彿とさせる。



デジコレ

<https://dl.ndl.go.jp/>



記念公園は、名前のとおり、このまちの“記念性”を考えさせてくれる公園なんだね！

近場で気軽に旅行しようという考え方で「マイクロツーリズム」と言われているけれど、この地域のことをもっと深く知り、色々な場所を訪ねてみよう！

資料で歴史を学ぶと、目の前の風景がまた別の色合いを帯びてくる感じがするね。



けいはんな学研都市の文化の双璧である、国立国会図書館関西館と、けいはんな記念公園。このコーナーは、それぞれのスタッフと、けいはんなをこよなく愛する公共図書館員、呉服淳二郎氏が執筆しました。

けいはんな グリーン イノベーション フォーラム

自然とともに暮らす豊かな社会。
これは、けいはんなグリーンイノベーションフォーラム
(KGIフォーラム)が描く未来社会のイメージです。



スマートエキスポ出展



ワークショップ風景



講演会風景

KGIフォーラムは、2015年、個人を主体に設立された市民活動団体です。この間、「もう一つの文明」を構想する人々をお招きし、対話型講演会を5回シリーズで開催し「日本の未来」を探求してきました。

また、伝統的未来技術としての地域資源（例えば、相楽木綿、柿渋）を「小さな博物館」と見立てて、それを核としたまちづくりに向けた議論を重ねてきました。



『日本の未来』

これらの取組は、書籍『もう一つの文明、を構想する人々と語る「日本の未来」』啓文社書房（2017年）の出版のほか、小さな博物館（相楽木綿など）の動画制作、冊子『柿渋読本』（2018年）の出版、更に『Web柿渋村』柿渋情報総合サイト』の立上げ（2019年）などとして結実しています。

こうして議論を踏まえ、KGIフォーラムは、今、「流域の思想」の下に、行政界を超えた地域連携の下に新たな実践への扉を開こうとしています。

この程、木津川流域に所在する天然資源をモチーフとして、いわゆる「文化産業」の振興に動んでおられる方々の思いを語っていただき、KGIフォーラムの活動に関心を寄せていただいている各分野の方々と懇談していただく場、「けいはんな天然資源利用促進懇談会」を開設することとしました。

本年度は、コロナ禍に配慮しオンライン開催とし、高校生や笠置寺住職、企業経営者などの多彩な顔ぶれから報告いただき、懇談を重ねてきました。これらはYouTubeチャンネル「KGI事務局」で発信しています。

本取組のスローガンは「地下資源文明から地上資源文明への転換の狼煙を木津川流域から!!「木津川流域「文化産業」パレーの形成に向けて」です。

また、懇談会実施に当たって取り上げたテーマは、第1に、木津川流域。そこは、天然資源、歴史文化資源の宝庫であり、「流域」は、「暮しの場」、「生業の場」、そして「学びの場」であること。第2に、「流域」を構成する「山と川と里」。その連環システム

の再生こそ、「地域創生」、「持続可能社会」への道ととらえています。第3に、今、木津川流域の有する地域創生の潜在力に着目し、「文化創生力」「産業創出力」「人間形成力」を探ります。

こうした懇談の中から、世界を視野に置きつつ、地域の発展に繋がる新しい取組が芽吹くことを期待しています。

対話型講演会【共通テーマ】“もう一つの文明”を構想する人々と語る「日本の未来」

個別テーマ	スピーカー(敬称略)
2015.11.20 自然信仰と共同社会	内山 節、池内了
2016. 3.11 流域の思想と風土の力	田中 克、印南 英俊、鳥居 敬男、池内了
2016. 6. 2 都市の在り方を問う…「農的」世界と「工的」世界を結ぶもの	秋山 豊寛、長尾 真、千田 二郎
2016. 9.29 金融資本を超える信頼資本 —自然と人間を経営にする豊かさから自然と人間を資本にする豊かさへ—	熊野 英介 ほか
2016.12. 7 “生存可能社会”に向けた社会の変革—自然共生文明への転換—	内藤 正明、池内了、千田 二郎

けいはんな天然資源利用促進懇談会（2020年度）

2020.11.22 天然資源「伝統的未来技術」再生プロジェクト関連 テーマ：柿渋バックをレジ袋の生素材に！ 報告者：京都学園高等学校 生徒	コメンテーター 松尾 友明 氏（柿渋・カキタンニン研究会 会長）
2020. 1.31 自然・歴史文化「体験観光」開発プロジェクト関連 テーマ：再発見！笠置山の魅力 報告者：小林慶昭氏（笠置寺代表役員）	コメンテーター 鈴木 康久 氏（京都産業大学 教授）
2020. 2. 24 「流域」から構想（デザイン）する「地域」の未来（総括懇談会） テーマ：地域資源を世界へ！ 報告者：松本靖治氏（京都おぶぶ茶苑副代表）	話題提供者 ①松尾 友明 氏（柿渋・カキタンニン研究会 会長） ②小林 慶昭 氏（笠置寺代表 役員） ③鈴木 康久 氏（京都産業大学 教授）



けいはんなグリーンイノベーションフォーラム

HP: www.kgi-forum.org

YouTube: <https://youtube.com/channel/UC3AF1ABWeTw6xPVP1SqBKPw>

Mail: office@kgi-forum.org



Event Information

けいはんな映画劇場

罪の声

監督：土井 裕泰
脚本：野木 亜紀子
出演：小栗 旬 星野 源
松重 豊 古舘 寛治 市川 実日子
宇崎 竜童 梶 芽衣子
原作：塩田 武士「罪の声」講談社文庫
配給：東宝

35年前、日本中を巻き込み震撼させた
未解決事件の真相！
脅迫テープに使われたのは、幼き頃の自分の
“声”だった—— 翻弄される運命。救うべきもの。
本当の“罪”とは——
観るもの全ての心を突き刺す感動の
ヒューマンミステリー大作が誕生。



©2020 映画「罪の声」製作委員会

上映日時(2時間22分)

4月9日(金)

①10:30～ ②14:00～ ③18:30～

4月10日(土)

①10:30～ ②14:00～ ③17:30～

料金

当日券のみ
一般1,100円、小・中学生、シニア(60歳以上)800円
けいはんなプラザ友の会会員700円

関経連×けいはんなオープンイノベーションフォーラム

けいはんな学研都市発スタートアップが集結 関経連× けいはんなオープンイノベーションフォーラム2021

けいはんな学研都市発の優れた技術を
有するベンチャー企業11社が集い、
自社の技術や製品をご紹介するとともに、
ご参加の皆様との交流、
出会いにつなげるフォーラムです。
多くの方のご参加をお待ちしています。



■日時 2021年4月26日(月)
13:00～15:00

■形式 オンライン

■主催 関西経済連合会、
関西文化学術研究都市推進機構、
(株)けいはんな

■申込方法
下記サイトからお申し込みください
<https://questant.jp/q/MGMH4VCS>

■問い合わせ 関西経済連合会 産業部
TEL.06-6441-0106



Maker Faire Kyoto 2021

■日 時 2021年5月1日(土) 12:00～17:00(予定)
2021年5月2日(日) 10:00～16:00(予定)

■会 場 けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)
■入場料 大人 600円/18歳以下 300円/未就学児は無料

チケット購入方法

- チケットはローソンチケット、e+(イープラス)にて販売予定
- チケットはすべて日時指定券になります(入れ替え制ではございません)
5月1日(土)：①12:00～14:00/②14:00～16:00
5月2日(日)：①10:00～12:00/②12:00～14:00/③14:00～15:00
- 会場入り口でのチケット販売は行っておりませんので、ご注意ください。
- 本年は2019年の開催よりも規模を縮小した開催になります。
- イベントの開催時間、開催形態などは変更の可能性があります。
ご来場前に必ず公式ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。

2020年はオンラインでの
開催となった
「Maker Faire Kyoto」を、
2021年はオンサイト
(展示会場)とオンラインの
「ハイブリッドイベント」として
開催します。

O'REILLY Make:



- 主 催 株式会社オライリー・ジャパン
- 後 援 京都府/公益財団法人京都産業21/
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構/
京田辺市/木津川市/精華町
- Web <https://makezine.jp/event/mfk2021>

ご来場は公共交通機関をご利用ください

オープンハウスのご案内

NTTコミュニケーション科学基礎研究所 オープンハウス2021のご案内

今年で30周年を迎える当研究所の最新の
研究成果をWebにて公開いたします。
講演動画・ポスター・デモコンテンツ等を
通じて、内容を身近に
感じていただけるよう、
分かりやすくご紹介します。

オンラインでの
講演および研究展示



■日時 2021年6月3日(木)
6月4日(金)(予定)

■公開webサイト

「オープンハウス2021」公式サイトは
NTTコミュニケーション科学基礎研究所の
ホームページよりアクセスください。
<https://www.rd.ntt.co.jp/>
※随時最新情報を公開致します。

■問い合わせ
NTT コミュニケーション科学基礎研究所
E-mail: cs-openhouse-ml@hco.ntt.co.jp



けいはんな学研都市 広報誌・けいはんなView[ビュー]

2021.03.Vol.48

編集・発行 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
関西文化学術研究都市建設推進協議会
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ・ラボ棟3階
TEL.0774-95-5105 FAX.0774-95-5104

発行責任者 中川 雅永
ホームページ <https://kri.or.jp/>
けいはんなポータル <https://keihanna-portal.jp/>
制作・印刷 株式会社チャンピオンシップス

表紙写真 鹿背山の里山

木津川市鹿背山(かせやま)は、けいはんな学研都市「木津北地区」(約152ヘクタール)として開発される計画でしたが、2003年に中止となりました。その後、都市化の中に残された貴重な自然環境として、地域住民や関係機関を中心としたいくつもの活動団体が里山保全を進め、さまざまな交流の舞台となっています。
(写真提供:中村伸之氏)